

〈情報部門〉

- ①経済産業省基本情報技術者試験
- ②経済産業省初級システムアドミニストレータ試験
- ③全国商業高等学校協会情報処理検定1級
- ④画像情報教育振興協会画像情報技能検定CG部門3級以上
- ⑤画像情報教育振興協会マルチメディア検定3級以上
- ⑥画像情報教育振興協会画像処理検定3級以上

〈経営・簿記部門〉

- ①日本商工会議所簿記検定3級以上
- ②全国商業高等学校協会簿記実務検定2級以上
- ③全国経理学校協会簿記能力検定2級以上
- ④全国商業高等学校協会商業経済検定2級以上

点検・評価 長所と問題点

入学後の調査によっても推薦入学と一般入試の入学者に学力、単位取得状況に統計上の差異がないことから入試制度として良く機能していると言える。また開学以来の制度として定着しており、資格条件については、高校現場の情報を収集しながら見直しを実施している。

将来の改善・改革に向けた方策

情報を学ぶ本学の特色から、情報専門コースなどに在学する高校生が志願しやすい方策を研究する必要がある。また、普通科高校から多様な人材を受け入れる点からは評定平均値の見直しも検討課題である。また、ミスマッチな推薦が生ずることがないように各学科のアドミッションポリシーを高校側に対して適確に伝える方策をより積極的にとる必要がある。

2 入学者受け入れ方針等

(1) 入学者受け入れ方針と大学・学部等の理念・目的・教育目標との関係

現状の説明

本学は、学校法人東京農業大学全体の理念である、社会のために「役に立つ学問を実践する」という実学主義を基礎とし、建学の精神を「未来を切り開く」、教育理念を「現代実学主義」、学生指導の理念を「自立と協調」として建学された大学である。よって本学は「情報」を基盤とした現代実学主義による教育を受けることを望み、かつこれに適した入学者選抜を行うよう努力している。具体的には選抜方法の多様化、評価基準の多元化、受験機会の複数化などにより、受験生の多様な個性や適性、意欲を幅広く評価することを基本とし、面接などでは情報に関する意欲、適性に配慮して入学者を選抜している。

点検・評価 長所と問題点

本学で学ぶ「情報」は極めて多様なものであり、コンピュータは本学で情報を学ぶ範囲の一つにすぎない。しかし、受験生の本学に対するイメージが「情報＝コンピュータ」一辺倒になる傾向があることは、多様な学生を受け入れたい本学からは功罪半ばするところである。

将来の改善・改革に向けた方策

建学の精神、教育理念、学生指導の理念については、ここ数年、特に力を入れて広報してきており、次第に高校にも浸透してきている。今後も大学案内、Web、高校訪問などを用いて本学の教育理念の浸透を図り、これに魅力を感じた志願者の増加を図っていく。

(2) 入学者受け入れ方針と入学者選抜方法、カリキュラムとの関係

現状の説明

各学科がカリキュラムと整合性のあるアドミッションポリシーを志願者に明示している。また推薦系入試では、学科ごとに入学後の学科の学びに適した推薦資格条件を定め選抜方法に工夫をしている。さらに、一般入試では理系色の強い学科のために試験科目に数学を採用しており、後期入試では情報システム学科において数学を必須科目とするなど、入学後の学習に困らない配慮をした入学者選抜を実施している。

点検・評価 長所と問題点

本学には文系から理系まで多様な4学科があるため、各学科のアドミッションポリシーとカリキュラムの関係が志願者にとってわかりにくい部分がある点が問題点である。

将来の改善・改革に向けた方策

今後は、複合的な学科を中心にアドミッションポリシーとカリキュラムとの関係を志願者にわかりやすくする工夫が必要である。

3 入学者選抜の仕組み

(1) 入学者選抜試験実施体制の適切性

現状の説明

学生募集方法、入学者選抜方法及び合格者決定の最終決定は教授会で行われる。

入試に関する組織としては、入試委員会（学長、副学長、学部長、大学院研究科委員長、各学科長、入試問題調整委員長、入試検討委員長で構成）、入試選考委員会（学長、副学長、学部長、各学科長、入試検討委員長で構成）、入試問題調整委員長、入試検討委員会（委員長と原則各学科教員2名で構成）が置かれている。